

入鹿小だより

熊野市立入鹿小学校
校長 樋口 佳洋
平成 29 年 10 月 17 日
第 14 号

紀南学校音楽発表会に向け 練習始まる！

11月22日（水）熊野市民会館で紀南学校音楽発表会が行われ、入鹿小学校の児童も参加します。そのための練習が始まりました。曲は合唱「変わらないもの」、合奏「フェアランドール」の2曲です。合唱は学年による違いはそれほどありませんが、合奏では1・2年生が鍵盤ハーモニカ、3・4年生がリコーダー、5・6年生が木琴・鉄琴・ピアノ・太鼓等と、それぞれ学年に応じた楽器を演奏します。各学年の音楽の時間に練習した成果を合同練習の時間に合わせることにより、少しずつ完成度を高めようと、どの子も一生懸命に練習しています。



尚、合唱「変わらないもの」につきましては、発表会前の11月11日（土）の午後、入鹿中学校の文化祭で、本番を前に発表させていただくことになりました。中学校文化祭、発表会ともに詳しい日程等につきましては後日連絡いたします。是非、子どもたちの頑張る姿をご覧ください。ただければと思っております。

千枚田での米作りの苦勞を学ぶ

10月11日（水）に3・4年生の総合的な学習の時間の一環として、丸山千枚田保存会の喜田会長さんをゲストティーチャーにお招きし、丸山千枚田のことについてたくさんのお話をいただきました。子どもたちは聞きたいことを次々と質問し、それにひとつずつ丁寧に喜田さんに答えていただきました。中でも、田植えの際に植えやすいように筋引きするための手作りの道具を持ってきていただき、子どもたちは実物に興味津々。百聞は一見に如かずといいますが、実物のインパクトの強さを再認識しました。

子どもたちは田植えと稲刈りしか体験していませんが、それ以外にも水の管理や草刈りなど、保存会の皆さんにお世話になっていることを知り、感謝の気持ちで一杯でした。

地元にあるこのような素晴らしい資源を、確実に次の世代に受け継ごうという志を持った子が現れることを期待しながら、ふるさとのすばらしさを学習しています。と同時に、将来、紀和の活性化に貢献してくれる大人に育つことを願っています。



マナウスよもやま話 ⑨

マナウス日本人学校大運動会

先日、紀和町合同運動会が行われましたが、マナウス日本人学校にも運動会があります。ある意味、合同運動会とよく似たところがあります。それは、マナウス日本人学校は小学部と中学部が併設されているので（ほとんどの日本人学校がそうです）小学生も中学生も参加するというのはまったく同じです。さらに、大人だけの競技がいくつかあるところも同じです。

ちがうのは、大人の種目の中に企業対抗種目がいくつかあることです。というのも、保護者の皆さんが勤務している企業では、マナウス日本人学校大運動会に会社の名誉をかけて大会に参加してくれます。特に白熱する企業対抗リレーでは、選手を選抜して必勝態勢で臨んできます。日本から派遣されているみなさんより足が速いブラジル人の従業員の皆さんが、HONDA、YAMAHA、DENSO、Panasonic など企業名の入ったそれぞれお揃いのユニフォームを着て走る姿は、そこがまるで国際大会のトラックかとまちがえるほどです。

大人の皆さんの昼食はもちろんシュハスコです。お昼近くになるとあちこちで炭をおこし始め、気の早いチームはお昼休みになる前に肉を焼き始めます。すると会場にとてもしよい香りが立ち込め、おなかがすいてたまりません。

もうひとつ、運動会の目玉に「ボイブンバ」があります。ボイブンバとは、マナウスからアマゾン川を約400km 下った島にある街「パリンチンス」で毎年6月に開催される一種のカーニバルで、赤組「ガランチード」と青組「カプリショーソ」にわかれて、どちらのチームのパフォーマンスが素晴らしかったかを競い合います。パリンチンスのみならず、アマゾン全体が自分のひいきのチームの応援に熱狂します。チームは毎年新しくいくつかの曲と踊り、山車を作ってパフォーマンスを競うのですが、その時の曲と踊りを子どもたちも赤組と青組にわかれてそれぞれ踊りを披露します。そして昼休みに、プログラムにはありませんが、大人も子どもも関係なく、みんなが踊ります。毎年曲も踊りも変わりますが、大人たちは練習していなくても大丈夫。祭りの前からそれぞれのCDも発売されるほどみんなが熱狂しますから、練習していなくてもちゃんと踊れるのです。おまけにダンスチームのダンサーもやってきます。さすがサンバの国ブラジルでしょ。

紀和町合同運動会でも「ふるさと踊り」で老いも若きもみんなで踊る場面がありましたね。曲のテンポこそちがいますが、たとえ所が変わっても、していることは同じですね。

